

学生便覧
2026年度

国際人文学部
国際文化学科

B2026-3-1

目次

I	教育研究上の目的.....	2
II	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	2
III	教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）	2
IV	授業科目について.....	3
V	授業科目の単位と認定.....	3
VI	卒業に必要な単位について.....	3
VII	進級条件及び各学年における標準的な修得単位.....	4
	【2年から3年への進級にあたって単位を修得すべき1年次の必修科目】	4
	■国際文化コース	6
	■韓国語コース	7
VIII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	8
	1. 全学部共通基盤科目群.....	8
	2. 外国語科目群	10
	3. キャリア形成科目群.....	13
	4. 専門基礎科目群	14
	5. 専門科目群	15
	(1) 専門科目群 I（国際文化）	15
	(2) 専門科目群 II（韓国にかかわる言語・文化・社会）	17
	(3) 専門科目群 III（ゼミ研修・実践）	18
	(4) 専門科目群 IV（言語・文化・社会関連）	19
	(5) 専門科目群 V（教職課程）	20

I 教育研究上の目的

国際人文学部は、世界の多様性と人間の諸活動についての学際的な教育研究を通じて、語学力と国際的な教養、社会人に必要な知識とスキルを十分に身に付け、国際社会で活躍できる人材を養成する。

国際文化学科は、多様な地域の言語、文化、社会に係る知識と比較の観点に基づく学際的な教育研究を通じて、国際的な視野をもって語学力と異文化理解力に優れ、柔軟な発想と行動力を備えた人材を養成する。

II 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

国際人文学部 国際文化学科は、所定の単位を修得し、かつ以下に該当すると判断した場合に、学士（国際文化）の学位を授与します。

1. 文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
2. 世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
3. 自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
4. 一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
5. 日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
6. 必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
7. 異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
8. 修得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

III 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

国際人文学部国際文化学科では、教育研究上の目的及びディプロマ・ポリシーに基づき、グローバル人材を育成するため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成します。

1. 文理融合型リベラルアーツとして、幅広い教養、新たなリテラシー及び総合的な洞察力を身に付けるため、全学部共通基盤科目群を設置する。
2. グローバル社会における教養としての言語、専門分野の学修に必要な言語を身に付けるため、外国語科目群を設置する。
3. 学生生活を充実させ、キャリア形成や生涯学習に資する主体的・自律的な学びを実現するため、導入期教育・ポートフォリオなどに関するキャリア形成科目群を設置する。
4. グローバル化する文化や社会のあり方について多様な切り口から学び、言語、文学、美術、歴史、社会、ジェンダー、比較文化など、人文学の専門分野の学びの基礎を身に付けるため、専門基礎科目群を設置する。
5. 日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパなど、世界の文化に関する専門知識を身に付け、活用できるように、専門科目群 I を設置する。
6. 韓国及び韓国語が使用される地域の言語・文化・社会についてより深く探究するため、専門科目群 II を設置する。
7. 演習及び研修・インターンシップを通して、専門分野の学びの集大成をはかるため、専門科目群 III を設置する。
8. 専門分野の学びをより広げ、卒業後の進路や就業に結び付けたキャリア形成をはかるため、言語・文化・社会関連科目からなる専門科目群 IV を設置する。
9. 専門分野の学びに係る教育職員免許状を取得するため、専門科目群 V を設置する。
10. アセスメント・ポリシーに基づく学修アセスメント・プランを提示し、ディプロマ・ポリシーに示す能力の修得状況及び学生の成長に伴う達成度を客観的に測定、評価する。

以上の教育課程の編成に基づき、各授業内容に応じて、知識の修得を目的とする「講義」、知識や理論を組み合わせ実践力を養うことを目的とする「演習」、事象の検証や実践的な応用、技術や技法の修得を目的とする「実習」を取り入れた授業形態を採用します。また、社会のニーズを踏まえた教育を展開することができるよう、実務家教員を配置します。さらに、効果的な授業人数の調整やICTを活用した教育方法を導入し、より効果的な教育を実施します。

IV 授業科目について

国際人文学部国際文化学科における授業科目は、全学部共通基盤科目群、外国語科目群、キャリア形成科目群、専門基礎科目群、専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴから構成されている。

なお、専門科目群Ⅴは、教職課程に登録している者（教職課程登録カードを教務課に提出し、定められた期日までに登録費及び課程費を納めた者）のみが履修することができ、修得単位は卒業単位に含まれない。ただし、4年次に教育実習受講要件を満たす者は、国語科教育法の修得単位を卒業単位に含むことができる。

V 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階の評価により行う。Fの評価については、単位を認定しないものとする。なお、N・Hは、単位振替により単位を認定したことを示す。

VI 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。各科目群で指定された単位数以上を修得すること。その上で、自らの学びを深めるために、各科目群より自由に履修し、合計126単位以上の卒業単位を修得すること。

ただし、外国語科目群の一部科目、専門科目群Ⅴの科目は卒業に必要な単位には含まれないので、注意すること。

系 列	学部・学科	国際人文学部 国際文化学科	
		単 位 数	
		国際文化コース	韓国語コース
全学部共通基盤科目群		9	
外国語科目群		16	20
キャリア形成科目群		5	
専門基礎科目群		10	
専門科目群Ⅰ（国際文化）		30	6
専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会）			24
専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）		10	
専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）		12	8
専門科目群Ⅴ（教職課程）		なし※	
自らの学びを深めるために、上記の科目群（外国語科目群の一部科目、専門科目群Ⅴを除く）より、それぞれの科目群で指定された単位数とは別に、卒業に必要な単位を34単位以上修得すること。		34	
計		126	

※専門科目群Ⅴの教科教育法の修得単位は、教職課程に登録している者で、4年次に教育実習受講要件を満たす者のみ、卒業単位に含むことができる。それ以外の科目は、卒業単位に含まれない。

Ⅶ 進級条件及び各学年における標準的な修得単位

1年から2年への進級にあたっては、15単位以上を修得していること。

2年から3年への進級にあたっては、50単位以上を修得していること。また、1年次の必修科目（英語選択必修科目4単位※、コース必修科目を含む。「データサイエンスⅠ」は含まない。）の単位を修得していること（下記の表参照）。ただし、50単位以上の単位修得がある場合には、これらの科目の未修得単位数が4単位以下の者の進級を、教授会の決定により認める場合がある。

※外国人留学生の場合は、日本語選択科目4単位。

他に、2年次に長期留学をし、海外留学に伴う単位認定を予定している者の進級は認める場合がある。

【2年から3年への進級にあたって単位を修得すべき1年次の必修科目】

<国際文化コース>

科目群	科目名	単位数
全学部共通基盤科目群	アカデミック・スキルズ	1
	デジタルアプリ A	2
外国語科目群	「Fundamentals of English I」 「Oral Fluency I」 の2科目4単位、または、 「English for Specific Purposes A・B」 「English for Advanced Studies A・B」 のうち2科目4単位	4
キャリア形成科目群	基礎演習 A	1
	基礎演習 B	2
専門科目群Ⅰ	国際文化入門	2

<韓国語コース>

科目群	科目名	単位数
全学部共通基盤科目群	アカデミック・スキルズ	1
	デジタルアプリ A	2
外国語科目群	「Fundamentals of English I」 「Oral Fluency I」 の2科目4単位、または、 「English for Specific Purposes A・B」 「English for Advanced Studies A・B」 のうち2科目4単位	4
キャリア形成科目群	基礎演習 A	1
	基礎演習 B	2
専門基礎科目群	韓国現代文化	2
専門科目群Ⅱ	韓国語プロジェクト（話す・聞く）Ⅰ	2
	韓国語プロジェクト（書く・読む）Ⅰ	2
	韓国語プロジェクト（話す・聞く）Ⅱ	2
	韓国語プロジェクト（書く・読む）Ⅱ	2

<留学生 国際文化コース>

科目群	科目名	単位数
全学部共通基盤科目群	アカデミック・スキルズ	1
	デジタルアプリ A	2
外国語科目群	「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「統合日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「専門日本語（ホテル・観光）」「専門日本語（異文化コミュニケーション）」「日本語アカデミック・ライティング」「日本語アカデミックスピーキング」「社会と文化の日本語 A・B」の12科目から 2科目4単位	4
キャリア形成科目群	基礎演習 A	1
	基礎演習 B	2
専門科目群Ⅰ	国際文化入門	2

<留学生 韓国語コース>

科目群	科目名	単位数
全学部共通基盤科目群	アカデミック・スキルズ	1
	デジタルアプリ A	2
外国語科目群	「日本語 I・II・III」「統合日本語 I・II・III」「専門日本語（ホテル・観光）」「専門日本語（異文化コミュニケーション）」「日本語アカデミック・ライティング」「日本語アカデミックスピーキング」「社会と文化の日本語 A・B」の 12 科目から 2 科目 4 単位	4
キャリア形成科目群	基礎演習 A	1
	基礎演習 B	2
専門基礎科目群	韓国現代文化	2
専門科目群II	韓国語プロジェクト（話す・聞く）I	2
	韓国語プロジェクト（書く・読む）I	2
	韓国語プロジェクト（話す・聞く）II	2
	韓国語プロジェクト（書く・読む）II	2

3年から4年への進級にあたっては、3年間の学業を遂行し、84 単位以上を修得していること。

各学年に履修する科目群および修得単位数の目安は、次の表に示すとおりである。選択するコースによって卒業要件が異なるため、1年次から学習計画を立てる必要がある。

履修登録単位数の上限（CAP）

各クォーター（S1, S2, F1, F2）の履修登録については 16 単位まで、サマーセッション（SS）は 6 単位まで、ウインターセッション（WS）は 6 単位までとし、年間の履修登録については原則 42 単位以下とする。

年間の履修登録単位数は、4 月入学生、9 月入学生ともに、4 月から 3 月の期間で計算する。

通算 GPA が 2.0 以上の場合、年間 49 単位までの履修登録が認められる。ただし、42 単位を超えて登録した者が、通算 GPA が 2.0 を下回った場合、次のクォーターの履修訂正期間に、年間の登録単位数が 42 単位以下となるよう登録科目を削除しなければならない。

※標準的な修得単位は次のとおりとする。

■国際文化コース

科目群	必修／ 選択	1年次	2年次	3年次	4年次		科目群 合計	必修科目 コース必修科目
全学部共通基盤科目群	必修	5				5	9	アカデミック・スキルズ デジタルアプリ A データサイエンス I (推奨) ジェンダー論 域学共創プロジェクト H
	選択	2	2			4		
外国語科目群	選択必修	12	4			16	16	Fundamentals of English I・II Oral Fluency I・II ※ 第二外国語 I・II・III・IV (留学生必修) 日本語科目 8 単位
	選択							
キャリア形成科目群	必修	3	2			5	5	(必修) 基礎演習 A・B・C (推奨) キャリア形成演習 航空・空港キャリア概論
	選択							
専門基礎科目群	選択	6	4			10	10	
専門科目群 I (国際文化)	コース必修	2				2	30	(必修) 国際文化入門 (推奨) 英語で読む社会、英語で 読む文化、クリティカル・リーディ ング
	選択	8	12	8		28		
専門科目群 II (韓国にかかわる言語・ 文化・社会)	選択							
専門科目群 III (ゼミ研修・実践)	必修			4	6	10	10	国際文化演習 I・II・III・IV (推奨) 国際文化研修
	選択							
専門科目群 IV (言語・文化・社会関連)	選択	2	6	4		12	12	
専門科目群 V (教職課程)								
自主選択			8	22	4	34	34	
学年別修得単位数 計		40	38	38	10	126	126	

※ 優れた英語能力を有すると認められた者は、「Fundamentals of English I・II」「Oral Fluency I・II」に代わり、「English for Specific Purposes A・B」「English for Advanced Studies A・B」のクラスを指定する。

■韓国語コース

科目群	必修/ 選択	1年次	2年次	3年次	4年次		科目群 合計	必修科目 コース必修科目
全学部共通基盤科目群	必修	5				5	9	アカデミック・スキルズ デジタルアプリ A データサイエンス I
	選択	2	2			4		
外国語科目群	選択必修	12	4			16	20	Fundamentals of English I・II Oral Fluency I・II ※ 第二外国語 I・II・III・IV (推奨) 韓国語 I・II・III・IV (留学生必修) 日本語科目 8 単位
	選択		2	2		4		
キャリア形成科目群	必修	3	2			5	5	(必修) 基礎演習 A・B・C (推奨) キャリア形成演習 航空・空港キャリア概論
	選択							
専門基礎科目群	必修	2				2	10	(必修) 韓国現代文化
	選択	2	4	2		8		
専門科目群 I (国際文化)	選択	2	2	2		6	6	
専門科目群 II (韓国にかかわる言語・ 文化・社会)	コース必修	8				8	24	(必修) 韓国語プロジェクトI・II (推奨) 韓国語プロジェクトIII, 日韓交流プロジェクト A・B
	選択	2	8	6		16		
専門科目群 III (ゼミ研修・実践)	必修			4	6	10	10	国際文化演習 I・II・III・IV (推奨) 国際文化研修
	選択							
専門科目群 IV (言語・文化・社会関連)	選択	2	2	4		8	8	
専門科目群 V (教職課程)								
自主選択	選択		12	18	4	34	34	
学年別修得単位数 計		40	38	38	10	126	126	

※ 優れた英語能力を有すると認められた者は、「Fundamentals of English I・II」「Oral Fluency I・II」に代わり、「English for Specific Purposes A・B」「English for Advanced Studies A・B」のクラスを指定する。

VII 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

〔留意事項〕

- (1) 「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で表示された科目は、数字の順序に従って履修するものとし、同一クォーターでの複数履修を不可とする。Ⅰを修得することで、Ⅱの履修を可とする。
- (2) 「A・B」で表示された科目は、アルファベットの順序に従って履修する必要はなく、同一クォーターでの複数履修を可とする。
- (3) 「ⅠA・ⅠB」は一方又は両方の履修を可とする。ⅠAを修得した場合はⅡAの履修を、ⅠBを修得した場合はⅡBの履修を可とする。
- (4) 実際の履修についてはシラバスに記された各科目の履修要件をよく読み確認すること。
- (5) 単位数を○で囲んだ科目は「必修」を示す。
- (6) 本学はクォーター制をとっている。基本的に大多数の科目はS1, S2, F1, F2の4つのクォーター、及びSS, WSの集中講義期間のいずれかに開講される。ただし、一部にS1, S2, またはF1, F2を通して開講される科目がある。また、SSとWSの集中講義期間には数日間同じ科目の授業が実施される。さらに、研修・インターンシップ等は、学期の枠と関係なく実施される場合もある。
- (7) 全ての授業科目は、年度初めに履修登録を行う。
- (8) 原則として上位学年の者は、下位学年に配当されている科目を履修できる。たとえば1年次の枠のみに指定されている科目でも、2年次以上になってから履修できる。ただし、授業内容は学年が進むほど専門性が高くなるように設定してあるので、それぞれの学年の枠で履修することが望ましい。

1. 全学部共通基盤科目群

全学部の学生を対象に設けた科目群である。各学部の専門の学びの基盤となる文理の壁を越えた幅広い教養、新たなリテラシー及び総合的な洞察力を身に付けることを目的とする。1年次から履修できる科目が多いが、いずれも専門的な内容であり、2年次以上に履修することで深く理解できる場合もある。その点をふまえて、計画的に履修すること。

【カテゴリ】

- (1) 大学での学びの基盤を固める—文献を調べる、論文を書く、プレゼンテーションをする、議論するための基礎を学ぶ
〔スタディ・スキルズ〕
- (2) 現象世界をつかむ—自然、生命、生態の理解を目指して、実験科学の知見を広める〔生命科学、環境科学など〕
- (3) デジタル社会を切り拓く—科学と技術の未来を支える数理的思考を深める
〔統計学、データ分析の基礎、情報セキュリティ入門、人工知能、データサイエンス、デジタルアプリなど〕
- (4) 現代社会の課題に挑戦する—学問の領域を超えて複眼的思考を身につけ、複雑な現代社会の課題に挑戦する
〔観光の現在と未来、スポーツ社会学、ボランティア論、地域プロジェクトなど〕
- (5) 歴史をひもとく—歴史を読み解く力により、現代社会の通念をうち破り、未来社会を切り拓く
〔日本史を学ぶ、アジア史、現代史、メディアの歴史(テレビ番組)など〕
- (6) 社会の構造的変動をとらえる—現代社会が直面する複合的な課題を構造的に分析する力を養う
〔マーケティング論、広告戦略論、社会学、社会調査、法律学、著作権、政治学入門、経済学入門、社会福祉学など〕
- (7) 世界を創造する—文化、芸術、文学を全人的に体験して創造力を高める
〔美学・芸術学、演劇・舞台芸術論、文学を読む、世界遺産のいまなど〕
- (8) 知の知を追究する—人間性の本質を探究し、新しい時代の理念、理想を追究する
〔哲学、倫理学、宗教学、数学、教育学、心理学、ジェンダー論など〕
- (9) 心と身体の充実をはかる—トレーニング、チームプレー、ゲーム参加などを通して、豊かな人間性、社会性を育む
〔スポーツ科学、Drug Action Science、感染症とくすり、ハーブ・サプリメント・漢方薬など〕

系列	カテゴリ	授業科目	年次及び単位数				最低修得単位数	備考
			1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目群	大学での学びの基礎を固める	アカデミック・スキルズ	①				9単位 「アカデミック・スキルズ」「デジタルアプリA」「データサイエンスI」の3科目5単位必修を含み、9単位以上を修得すること。	
	現象世界をつかむ	自然科学概論	2					
		生命現象の理解とその応用—生命科学	2					
		生物からみた環境の仕組み—生態学	2					
		食環境論	2					
		香りと環境	2					
身体理解	2							

系列	カテゴリ	授業科目	年次及び単位数				最低修得単位数	備考
			1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目群	デジタル社会を切り拓く	デジタルアプリ A	②				※ *1日(日本語開講)と *1英(英語開講)の科目は同一科目につき、いずれか1科目のみ単位修得をすることができる。	
		デジタルアプリ B	2					
		情報セキュリティA	2					
		情報社会と情報倫理	2					
		人工知能論	2					
		データサイエンス I		②				
		データサイエンス II		2				
		モデル化とシミュレーション			2			
		プログラミングA			2			
		アルゴリズムA			2			
		情報システム論			2			
		統計学 *1日			2			
		Statistics *1英			2			
		データ分析の基礎(解析)	2					
		データ分析の基礎(線形代数)	2					
		インターネット配信	2					
		現代社会の課題に挑戦する	観光の現在と未来	2				
	ヘルスツーリズム		2					
	社会心理学		2					
	生活と文化			2				
	生涯スポーツ概論		2					
	スポーツ社会学		2					
	ボランティア論		2					
	コミュニケーションの基礎		2					
	域学共創プロジェクト A		2					
	域学共創プロジェクト B		2					
	域学共創プロジェクト C		2					
	域学共創プロジェクト D		2					
	域学共創プロジェクト E		2					
	域学共創プロジェクト F	2						
	域学共創プロジェクト G	2						
	域学共創プロジェクト H	2						
	域学共創プロジェクト I	2						
	域学共創プロジェクト J	2						
	歴史をひもとく	史学概論	2					
		日本史を学ぶ	2					
		アジア史概論	2					
		現代史入門	2					
		房総の文化と歴史	2					
		映像メディア史	2					
	音楽史	2						
	社会の構造的変動をとらえる	政治学入門	2					
		経済学入門	2					
		社会と経営	2					
		社会と会計	2					
		マーケティング論	2					
		広告戦略論	2					
社会学		2						
社会調査			2					
法律学概論		2						
日本国憲法		2						
著作権		2						
社会福祉学 A	2							

系列	カテゴリ	授業科目	年次及び単位数				最低修得単位数	備考
			1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目		社会福祉学 B		2				
		経営情報基礎論 A	2					
	世界を創造する	世界遺産のいま	2					
		美学・芸術学	2					
		表象文化研究	2					
		世界の文学	2					
		演劇研究	2					
		古典芸能研究	2					
		文学を読む	2					
		知の知を追求する	教育学	2				
	心理学	2						
	基礎の数学	2						
	ジェンダー論	2						
	根拠への問い—哲学へのとびら	2						
	異文化適応論	2						
	宗教学概論	2						
	倫理学概論	2						
	心と身体 の充実を 図る	スポーツ科学 A	1					
		スポーツ科学 B	1					
		しゃべりのスキル Up I	2					
		Drug Action Science	2					
		症状に合わせた健康セルフケア	2					
		感染症とくすり	2					
		ハーブ・サプリメント・漢方薬	2					

2. 外国語科目群

言語の学びは、国際人文学部国際文化学科の基本である。本科目群では、グローバル社会における教養としての言語、専門分野の学修に必要な言語の基礎を学ぶための科目を配置している。なお、必修、選択必修の言語のほかにも、興味関心のある国や地域の言語を履修することができる。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	Fundamentals of English I	2				国際文化コース 16単位 韓国語コース 20単位	■日本で12年間の学校教育を受けた学生または同等の能力を有している学生 (1) 英語は、下記の8科目から4科目8単位を選択必修。 「Fundamentals of English I・II」 「Oral Fluency I・II」 「English for Specific Purposes A・B」 「English for Advanced Studies A・B」 ※「English for Specific Purposes A・B」「English for Advanced Studies A・B」の4科目は優れた英語力を有すると認められた者のみが履修できる科目である。
	Fundamentals of English II		2				
	Oral Fluency I	2					
	Oral Fluency II		2				
	English for Specific Purposes A	2					
	English for Specific Purposes B	2					
	English for Advanced Studies A	2					
	English for Advanced Studies B	2					
	TOEIC Preparation A	2					
	TOEIC Preparation B	2					
	TOEIC Preparation C	2					
	TOEIC Preparation D	2					
	Basic Writing Skills I		2				
Basic Writing Skills II		2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位	備考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	Intermediate Practical Discussion Skills I	2				※ 留学生・指定された帰国生徒も履修できる。ただし、母語を履修することはできない。	
	Intermediate Practical Discussion Skills II	2					
	Intermediate Writing Skills I		2				
	Intermediate Writing Skills II		2				
	Intermediate Reading Skills I		2				
	Intermediate Reading Skills II		2				
	Advanced Discussion Skills			1			
	Advanced Reading Skills			1			
	Spoken Business English			2			
	Oral Fluency III		2				
	Oral Fluency IV		2				
	Topics for Cross-cultural Communication: Global Issues A		1				
	Topics for Cross-cultural Communication: Global Issues B		1				
	中国語 I	2				(2) 第二外国語は、「中国語 I」から「チェコ語 IV」までの科目のうち、一言語を選択し、同一言語 I・II・III・IV の4科目8単位を選択必修。 ◆ 韓国語コースの学生は、英語・第二外国語の選択必修16単位のほかに、選択4単位も履修すること。(韓国語コースの留学生は、日本語科目の備考欄を参照。)	
	中国語 II	2					
	中国語 III	2					
	中国語 IV	2					
	韓国語 I	2					
	韓国語 II	2					
	韓国語 III	2					
	韓国語 IV	2					
	韓国語 V		2				
	韓国語 VI		2				
	ドイツ語 I	2					
	ドイツ語 II	2					
	ドイツ語 III	2					
	ドイツ語 IV	2					
	フランス語 I	2					
	フランス語 II	2					
	フランス語 III	2					
フランス語 IV	2						
スペイン語 I	2						
スペイン語 II	2						
スペイン語 III	2						
スペイン語 IV	2						

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位	備考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	ハンガリー語 I	2					<p>■ 留学生・指定された帰国生徒 「日本語 I」から「キャリア日本語（進学）」までの16科目のうちの4科目8単位を選択必修。</p> <p>◆ 国際文化コースの留学生は、日本語の選択必修8単位以外に、8単位を選択履修。</p> <p>◆ 韓国語コースの留学生は、日本語の選択必修8単位以外に、12単位を選択履修。</p> <p>※ 選択科目は、日本語以外の外国語科目を履修できる。ただし、母語を履修することはできない。</p> <p>※ 「日本語 I」から「キャリア日本語（進学）」までの16科目は、留学生と指定された帰国生徒のみが履修できる科目である。</p>
	ハンガリー語 II	2					
	ハンガリー語 III	2					
	ハンガリー語 IV	2					
	ポーランド語 I	2					
	ポーランド語 II	2					
	ポーランド語 III	2					
	ポーランド語 IV	2					
	チェコ語 I	2					
	チェコ語 II	2					
	チェコ語 III	2					
	チェコ語 IV	2					
	日本語 I	2					
	日本語 II	2					
	日本語 III			2			
	統合日本語 I	2					
	統合日本語 II	2					
	統合日本語 III			2			
	日本語アカデミック・ライティング	2					
	日本語アカデミック・スピーキング	2					
	社会と文化の日本語 A	2					
	社会と文化の日本語 B	2					
専門日本語（ホテル・観光）			2				
専門日本語（異文化コミュニケーション）			2				
ビジネス日本語 I				2			
ビジネス日本語 II				2			
キャリア日本語（就職）				2			
キャリア日本語（進学）				2			

系統	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
	日本語（言語知識）	2					※「日本語（言語知識）」から「日本語 E」は、指定された留学生のみ履修することができる。ただし、修得単位は卒業単位には含まれない。
	日本語（読解・聴解）	2					
	日本語 A	2					
	日本語 B	2					
	日本語 C	2					
	日本語 D	2					
	日本語 E	2					

- (1) 外国語科目群では、第一外国語として英語（留学生・指定された帰国生徒等は日本語）を学ぶ。第一外国語として英語を学ぶ者は、Fundamentals of English I・II, Oral Fluency I・II は必ず選択すること。ただし、国際人文学部の協議で優れた英語能力を有すると認められた者は、English for Specific Purposes A から English for Advanced Studies B の 4 科目からいずれかの科目の履修を指定する。
- (2) Fundamentals of English II, Oral Fluency II を履修するためには、履修前提条件として、それぞれの I を修得していなければならない。同様に、第二外国語IIを履修するためには、同一の第二外国語Iを修得していなければならない。
- (3) 英語科目を履修する場合は、必ずプレイスメントテストを受験すること。入学時は、オリエンテーション期間に実施する。
- (4) 日本語科目は、日本語能力試験の合格レベルに応じた科目（N2, N1）を選択すること。
- (5) 日本語能力が N2 相当の水準に達していない場合は、指定される日本語クラスを履修すること。

3. キャリア形成科目群

キャリア形成科目群は、学生生活を充実させ、キャリア形成や生涯学習に資する主体的・自律的な学びを実現するための科目を配置している。

「基礎演習 A・B」は1年次、「基礎演習 C」は2年次の必修である。大学で学ぶための基礎的な学力を身につけることや専門分野への導入を目的としている。また、キャリア形成への意識開発と目標設定を行うことも目的としている。

「キャリア形成演習」「ビジネス入門」「航空・空港キャリア概論 A・B」は選択科目である。「キャリア形成演習」は、就職活動への準備を行うことを目的としている。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
キャリア形成科目群	基礎演習 A	①				5 単位	両コースとも、「基礎演習 A・B・C」を必ず含めて、5 単位以上を修得すること。
	基礎演習 B	②					
	基礎演習 C		②				
	キャリア形成演習		2				
	ビジネス入門	2					
	航空・空港キャリア概論 A	2					
	航空・空港キャリア概論 B	2					

※「基礎演習 A・B・C」を修得していない場合は、原則として、専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）における「国際文化演習 I・II・III・IV」は、履修できない。

4. 専門基礎科目群

専門基礎科目群は、グローバル化する文化や社会のあり方について多様な切り口から学び、言語、文学、美術、歴史、社会、ジェンダー、比較文化など、専門分野について学ぶ上での基礎を身に付けるための科目を配置している。

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
専門基礎科目群	歴史・文化の視点	2				10 単位	<p>◆ 国際文化コースは 5 科目 10 単位以上修得すること。</p> <p>◆ 韓国語コースは、コース必修科目「韓国現代文化」を含み、5 科目 10 単位以上修得すること。</p> <p>※ *2日(日本語開講)と *2英(英語開講)の科目は同一科目につき、いずれか 1 科目のみ単位修得をすることができる。</p>
	異文化理解	2					
	世界の中の日本 *2日	2					
	Japanese Culture Viewed Globally *2英	2					
	比較文化概論	2					
	文化人類学	2					
	言語学概論	2					
	日本文学概論	2					
	視覚文化論	2					
	社会学入門	2					
	日本の歴史 A	2					
	日本の歴史 B	2					
	外国史概説	2					
	アメリカ文化概論	2					
	中国概論	2					
	韓国現代文化	2					
日本語学概論 A	2						
日本語学概論 B	2						

5. 専門科目群

国際文化学科の専門科目群は、専門科目群Ⅰ（国際文化）、専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会）、専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）、専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）の4系列に分かれている。ⅠとⅡ、Ⅳの科目群は、「国際文化コース」「韓国語コース」の2つのコースによって修得する単位数や必修科目が異なるので注意が必要である。どちらかのコースを各自の専門として選択し、4年次には各自の研究内容を文章や作品の形で集大成する。したがって、コースを念頭において、1年次から計画的に履修し、系統立てて学習する必要がある。

(1) 専門科目群Ⅰ（国際文化）

この科目群では、「世界から見た日本、日本から見た世界」を基本理念に、日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパなど、世界の文化にかかわる専門知識を獲得し、同時に、文化比較により日本文化を世界的視野で見直し、世界に発信できる能力、世界で活用できる能力を身に付けるための科目を配置している。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ (国際文化)	国際文化入門	2				国際文化コース 30単位	◆ 国際文化コース コース必修「国際文化入門」を含み、15科目 30単位以上修得すること。
	現代文化論	2					
	日本の伝統文化	2					
	日本民俗学	2					
	日本文化論		2				
	日本語表現	2					
	日本文学史		2				
	日本の文学（古典）			2			
	日本の文学（近・現代）			2			
	アメリカ文学概論	2					
	アメリカの歴史	2					
	ラテンアメリカの歴史		2				
	ドイツの社会と文化	2					
	中国の歴史	2					
	日本美術	2					
	西洋美術	2					
	国際日本学	2					
	文化交流史（日本：アジア）			2			
	文化交流史（日本：欧米）			2			
	日本とアジア			2			
	日本と北米			2			
	日本と中南米			2			
	日本とヨーロッパ *3日			2			
	Japan and Europe *3英			2			
	日中比較文化				2		
	多文化社会論				2		
International Communication			2				
Language Acquisition			2				

※ *3日(日本語開講)と*3英(英語開講)の科目は同一科目につき、いずれか1科目のみ単位修得をすることができる。

	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群 I (国際文化)	Topics in Culture and Society in Japan			2			
	Topics in Japanese Manga and Animation			2			
	日本語の文法 A	2					
	日本語の文法 B	2					
	日本語の語彙・意味	2					
	日本語の音声		2				
	英語で読む社会	2					
	英語で読む文化	2					
	英語で読む文学		2				
	中国語コミュニケーション I		2				
	中国語コミュニケーション II		2				
	クリティカル・リーディング A		1				
	クリティカル・リーディング B		1				
	国際文化プロジェクト			2			

(2) 専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会）

この科目群では、日本が過去および現在、密接な関係を持ち、未来においても相互の関係の発展が求められる韓国および韓国語が使用される地域の言語・文化・社会について総合的に学び、より深く探究することを目的とする科目を配置している。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ (韓国にかかわる言語・文化・社会)	韓国語プロジェクト (話す・聞く)Ⅰ		2			韓国語 コース 24単位	◆ 韓国語コース コース必修「韓国語プロジェクトⅠ・Ⅱ」の 4科目8単位を含み、 12科目24単位以上修得すること。 ◆ 国際文化コース 特に条件はない。
	韓国語プロジェクト (書く・読む)Ⅰ		2				
	韓国語プロジェクト (話す・聞く)Ⅱ		2				
	韓国語プロジェクト (書く・読む)Ⅱ		2				
	韓国語プロジェクト (話す・聞く)Ⅲ			2			
	韓国語プロジェクト (書く・読む)Ⅲ			2			
	韓国の歴史		2				
	韓国の政治と社会		2				
	韓国の映像と文学			2			
	日韓通訳技法Ⅰ			2			
	日韓通訳技法Ⅱ				2		
	日韓翻訳プロジェクトⅠ			2			
	日韓翻訳プロジェクトⅡ				2		
	日韓比較文化				2		
	日韓交流プロジェクトA		2				
	日韓交流プロジェクトB			2			
	韓国語検定演習A		2				
	韓国語検定演習B		2				
韓国語検定演習C			2				

〔備考〕

韓国語コースを選択する者は、1年次から計画的にコース必修科目を履修すること。

(3) 専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）

この科目群は、演習と研修から構成される。

演習科目のうち、「国際文化演習Ⅰ・Ⅱ」は3年次、「国際文化演習Ⅲ・Ⅳ」は4年次の必修である。「Ⅰ・Ⅱ」では研究法や論文作成法、口頭発表法を実践的に学び、「Ⅲ・Ⅳ」ではさらにそれを発展させ、みずからの見解を形成し、課題の発見と解決に努める。また、4年間の学びや活動の集大成として卒業論文や報告書をまとめたり、作品を制作したりする。

研修科目には、「コミュニケーション・インターンシップ」「国際文化研修A・B」があり、いずれも選択科目である。「コミュニケーション・インターンシップ」は、海外において日本語教授の実習を行うもので、日本語教員養成課程（副専攻）の選択科目でもある。「国際文化研修A」は海外で、「国際文化研修B」は国内で研修を行う。当該地域の文化を現地において体験し、新たな知識と視野を獲得することを目的とする実践科目である。1～3年次において、いずれかの研修に参加することが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅲ (ゼミ研修・実践)	国際文化演習Ⅰ			②		10 単位	両コースとも、必修「国際文化演習」4科目10単位以上を修得すること。
	国際文化演習Ⅱ			②			
	国際文化演習Ⅲ				②		
	国際文化演習Ⅳ (卒業論文または制作を含む)				④		
	コミュニケーション・インターンシップ		3				
	国際文化研修A			2			
	国際文化研修B			2			

〔備考〕

- (1) 「国際文化演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修するためには、原則として、キャリア形成科目群における「基礎演習A・B・C」を修得していなければならない。

(4) 専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）

この科目群には、国際関係、経済、翻訳・通訳、日本語教育、漢文講読・書道、家族・女性論、地理学・地誌、生涯学習や文化保全など、専門の学びをより広め、大学における学びを卒業後の活動や仕事に結びつける科目を配置している。国際的な場で仕事をするための知識や視点を習得する科目、専門職に必要な知識や技能を習得する科目、日本語教員及び国語科教職の養成課程に関する科目が配置されているので、個々の目標を立てて履修していくことが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考		
		1年	2年	3年	4年				
専門科目群Ⅳ （言語・文化・社会関連）	国際法			2		国際文化コース 12単位	◆ 国際文化コースは、6科目12単位以上修得すること。		
	国際経済学			2					
	国際関係論			2					
	日中翻訳技法Ⅰ		2					韓国語コース 8単位	◆ 韓国語コースは、4科目8単位以上修得すること。
	日中翻訳技法Ⅱ			2					
	日中通訳技法Ⅰ		2						
	日中通訳技法Ⅱ			2					
	日本語教授法（教授法）		2						
	日本語教授法（コースデザイン・評価）		2						
	日本語教授法（教材・教具）		2						
	日本語教育事情			2					
	日本語教育実習Ⅰ			2					
	日本語教育実習Ⅱ			2					
	異文化間コミュニケーション論		2						
	第二言語習得論		2						
	社会言語学		2						
	言語学			2					
	家族論	2							
	アジアの女性論	2							
	アジア国際関係論		2						
	ヨーロッパの社会と文化 *4日	2				※ *4日（日本語開講）と*4英（英語開講）の科目は同一科目につき、いずれか1科目のみ単位修得をすることができる。			
	European Society and Culture *4英	2							
	ヨーロッパ地域文化研究			2					
	漢文講読		2						
	書道（書写中心）		2						
	経済原論 A		2						
	経済原論 B		2						
	自然地理学		2						
	人文地理学		2						
	地誌		2						
文化遺産		2							
生涯学習論	2								
文化資源論	2								

(5) 専門科目群V (教職課程)

専門科目群Vは、教育職員免許状の取得に必要な科目を配置する。本科目群の修得単位は、卒業単位に含まれない。ただし、国語科教育法の修得単位は、教職課程に登録している者で、4年次に教育実習受講要件を満たす者のみ、卒業単位に含むことができる。

※ 教職課程に登録している者とは、教職課程登録カードを教務課に提出し、定められた期日までに登録費及び課程費を納めた者をいう。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群V (教職課程)	教育原理		2				各教科教育法の修得単位は、教職課程に登録している者で、4年次に教育実習受講要件を満たす者のみ、卒業単位に含むことができる。
	教育課程論	2					
	教職論	2					
	教育心理学		2				
	特別のニーズ教育論		2				
	教育制度		2				
	教育方法論 (ICT活用を含む)			2			
	国語科教育法 I			2			
	国語科教育法 II			2			
	国語科教育法 III			2			
	国語科教育法 IV				2		
	道徳教育の理論と方法	2					
	総合的な学習の時間の指導法		2				
	特別活動論		2				
	生徒指導 (進路指導の理論及び方法を含む)		2				
	教育相談 (カウンセリングを含む)			2			
	介護等体験			2			
教育実習 I (事前及び事後指導を含む)				3			
教育実習 II				2			
教職実践演習 (中・高)				2			